

妙義山(中間道コース)山行報告

【山行日】 2015年 2月 15(日) 曇り後晴れ
【集 合】 岩舟支所P AM 6:30
【費 用】 マイカー2台 2,000円
【メンバー】 CL:鈴木、香川、梶内、関、松館
【コースタイム】岩舟支所 6:30＝道の駅「みょうぎ」
7:35/7:50～妙義神社 8:20～第二見晴 9:00～
東屋:9:40～天狗のひょうてい 10:40～第四石門
11:00/11:30～轟岩 12:15～中の岳神社 12:40～
一本杉 13:10～道の駅「みょうぎ」13:40/14:00＝
岩舟支所 P16:00



浅間の黒斑山へスノートレッキングに出かける予定だったが、西高東低の冬型気圧配置が強まり浅間山は雪で風も強い予報。今朝の予報で雪の場合は、行き先を妙義山に変更しようと思っていた。車の中で皆さんに話すと、雪と風の中歩くのは辛いのでOKですとの返事で妙義山に向かう。

道の駅「みょうぎ」に着くと、曇り空で雪が舞い皆さん不安そう。「この雪は風花で、風に乗って山を越えて飛んでくる雪なので、すぐにおさ

まります。」と言うと皆安堵した様子。

妙義神社まで行くと、雪はおさまり薄日が差してきた。妙義神社は1400年以上前の創建と伝えられ、鮮やかな色彩の本殿や唐門は国の重要文化財に指定されている。神社から一段下り、



右側の門から出るとすぐに「石門・中の岳神社方面」への標識がある。岩場の基部を巻き、小尾根を越えると大の字から下って来た道に合わさる。少し進むと第一見晴に着き、さらに大黒ノ滝を過ぎ小沢を渡ると第二見晴に着く。展望は第一見晴よりも良く、松井田の市街地や後ろの白雲山等

の岩峰が見事である。中間点の本読み地藏を過ぎ、アップダウンを繰り返して進むと休憩舎に出る。

休憩をとり、コーヒーと大福でエネルギーを補給する。ここからは登りが続き、ジグザグに登って行く



くと岩のヤセ尾根を鉄梯子で登るようになる。長さは100mほどあり、両側は切れ落ちているが手すりがあるので危険は無い。この先は岩峰の基部をへ攀るようになり、ガレ場を過ぎると大砲岩に見えてくるが、雪が凍っていて滑りやすく慎重に登る。大砲岩へは岩尾根を鎖で下り、垂直の岩壁を鎖で上り下りを繰り返して、「天狗のひょうてい」の展望台に登る。ここからの眺望は素晴らしく、奇岩と松の木々が織りなす風景は他では見られない絶景だ。

登山道まで戻り、少し下ると第四石門に着く。広場になっており、大きな東屋とテーブルとベンチが沢山あり、絶好の休憩場所だ。

妙義山のビューポイントで、アーチ状の第四石門の中に、大砲岩を配して撮った写真は観光パンフレットに必ず写っている。

東屋で昼食タイムとし、温かいすいとん汁といなり寿司をゆっくりいただく。カミさん特製のいなり寿司は、かなり太めちゃん。



2個は食べられないとS嬢は、K川さんに助っ人をお願い。

お腹が満たされ、中ノ岳神社に向かって下山する。展望台までは登りで、大きいお腹にはとてもつらい。でも展望台からの展望は、疲れを吹き飛ばしてくれた。お昼を食べた第四石門や、鎖で登った天狗のひょうてい、大砲岩等日本三奇景の絶景が眼下に広がる。展望台からは整備された登山道



道の中ノ岳神社に下って行く。中ノ岳神社奥ノ院へ着き、社殿の上にそそり立つ轟岩が目に入る。「15分で登れるから登れば。」と言うと、4人とも喜んで登って行く。一足先に下に降り、轟岩に皆が着くのを待ち、皆が轟岩の上で手を振る姿を写真に収める。降りてきて、あの岩の上に登ったんだよと教えると、「エ〜あんな高い所に登ったんだ。！」と感激していた。中ノ岳神社からはしばらく道路を歩き、一本杉から山道へ入る。休憩舎の先で再び道路に出て、20分くらい歩くと妙義神社への分岐の下をトンネルでくぐり、道の駅に降りて行く。もちろん道の駅でお土産をゲット。

舞茸が新鮮で安く、1株の立派な舞茸を550円でゲット。家に帰り、炊き込みご飯と天ぷらで食べたが、香りと歯ごたえがバツグンでとても美味しかった。

スノートレッキングは出来なかったが、変化に富んだコースはとても楽しく、充実した山行となった。